受動態の基本は中学生向けのノートを参照のこと。

受動態

● 各時制における受動態

◎ 未来形

○ The letter will be sent to you in one week.

※ 意味：「一週間程度であなたに手紙が送られるでしょう。」

※ 未来の場合は，be + p.p.の前に will / be going to を入れる。

※ 未来形に限らず，助動詞を含む場合はこのような形になる。

◎ 進行形

○ Our house is being built now.

※ 意味：「私たちの家が今建てられている。」

※ 進行形の原則通り，be + being + p.p.の形にする。

※ *もうちょっとましな例文を思いつきたかった…。*

◎ 完了形

○ He has been known as a walking dictionary.

※ 意味：「彼は生き字引として知られている。」

※ 完了形の原則通り，have + been + p.p.の形にする。

● not 以外の否定

not 以外にも never や hardly を使って否定を表せるが，これらの語も not と使い方は変わらない。

○ I was not allowed to go there.

= I was never allowed to go there.

※ 意味：「私はそこに行くことを許してもらえなかった。」

※ never を使ったほうが「一度もない」ことが強調される。

○ It can hardly be seen.

※ 意味：「それはめったに見られない。」

※ hardly「めったにない」(=almost not)

©2002 YSK http://www3.to/ysk.site

● 目的語に that 節をとる動詞の受動態

expect, know, say, think などの that 節をとる動詞は，２種類の受動態が書ける。

◎ 基本例

○ that 節を主語にした場合の書き方

They say that he is a liar.

↓ that 節をそのまま主語にする。

That he is a liar is said. （by them は一般人の意味なので省略）

↓ 仮主語の it を主語にする。

It is said that he is a liar.

※ 意味：「彼は嘘つきだと言われている。」

※ It is said that ～.で「～と言われている。」というある程度熟語化した表現になっている。

○ that 節の中の主語を受動態の主語にした場合

They say that he is a liar.

↓ that 節の中の he を主語にして，動詞を不定詞にする。

He is said to be a liar.

※ 意味は that 節を主語にしたものと同じ。

※ このとき，もともと that 節の中で使われていた動詞が to 不定詞になることに注意する。

◎ 主節と従節の時制が違う場合

○ They believe that he died.

→It is believed that he died.

→He is believed to have died.

※ 意味：「彼は死んだと思われている。」

※ 上の文では，主節と従節で動詞の時制が違うので問題ないが，下の文の場合不定詞はそのままでは時制を表現できないので，完了形の不定詞にして時制が主節の前であることを表す。

©2002 YSK http://www3.to/ysk.site

● make と知覚動詞

「～させる」という使役の意味の make と，原形不定詞をとる知覚動詞の受動態は形が特殊になる。

◎ make の場合

○ My mother made me study for ten hours.

→I was made to study for ten hours by my mother.

※ 能動態の意味：「私の母は私に 10 時間勉強させた。」

※ 受動態の意味：「私は母に 10 時間勉強させられた。」

※ that 節をとる動詞のときのように，これも受動態にすると to 不定詞が出てくる。

※ make＋ 人 ＋do「人に～させる。」

◎ 知覚動詞の場合

○ They sometimes heard her speak French.

→She was sometimes heard to speak French.

※ 能動態の意味：「彼らはときどき，彼女がフランス語を話すのを聞いた。」

※ 受動態の意味：「彼女はときどきフランス語を話すのを聞かれた。」

※ これも make と同じように受動態では to 不定詞が出てくる。

◎ 知覚動詞でも原形不定詞を伴わない場合

○ They heard her speaking French.

→She was heard speaking French.

※ 能動態の意味：「彼らは彼女がフランス語を話しているのを聞いた。」

※ 受動態の意味：「彼女はフランス語を話しているところを聞かれた。」

※ 知覚動詞を使っていても，能動態の文で原形不定詞が使われていない場合は受動態では to 不定詞にはならない。

©2002 YSK http://www3.to/ysk.site